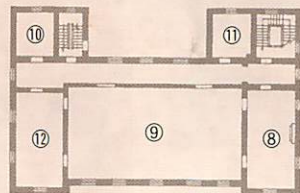


◆館内ご案内

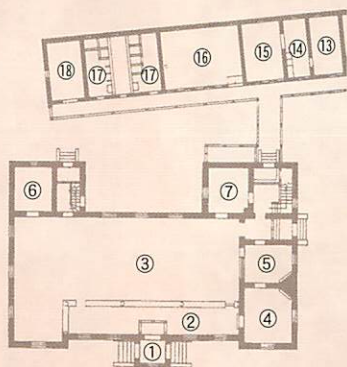
二階平面図

- ⑧ 貴賓室
- ⑨ 会議室
- ⑩ 書籍室 (企画展示室)
- ⑪ 第二応接室 (修復資料室)
- ⑫ 食堂 (国境画定会議資料室)



一階平面図

- ① 表玄関
- ② 客溜り
- ③ 営業室 (海運資料展示コーナー)
- ④ 応接室
- ⑤ 支店長室
- ⑥ 金庫室
- ⑦ 店直室
- ⑧ 宿直室
- ⑨ 炊事室 (水飲場)
- ⑩ 倶楽部
- ⑪ 球戯室 (休憩室)
- ⑫ W.C.
- ⑬ 看賞場



※室名は旧室名です

資料展示コーナーのご案内

§ 海運資料コーナー

「小樽の歩みと日本郵船」をテーマに、明治・大正期の海運を中心とした小樽の発展経過と日本郵船に関する資料を展示しています。

§ 国境画定会議資料室

国境碑 (模型)、国境碑拓本のほか、画定会議や現地における作業などに関する写真や資料を展示しています。

§ 修復資料室

漆喰剥離状況、擬石作成過程など、修復工事に関わる貴重な資料を展示しています。

◆◆◆建築概要◆◆◆

- 本館 ・ 建築面積：485㎡
- ・ 構造：石造二階建・亜鉛引鉄板葺
- 附属舎 ・ 建築面積：221㎡
- ・ 構造：石造 (一部木造) 一階建・正面下屋付瓦葺

～ご案内～

§ 開館時間 午前9時30分～午後5時

§ 休館日 火曜日 (祝日の場合は開館、翌日以降の平日に振替休)
年末年始 (12月29日～1月3日)

※上記以外に臨時休館する場合があります

§ 入館料

	一 般	高校生 市内居住の70歳以上の方
普通入館料	300円 (240円)	150円 (120円)
共通入館料 (総合博物館本館又は運河館と共通)	500円 (400円)	250円 (200円)
定期入館料 (総合博物館本館及び運河館と共通)	1,000円	500円

※ () は20人以上の団体料金 ◆中学生以下無料

§ 交 通

JR小樽駅下車 徒歩約20分

小樽駅前バス停より 中央バス②③系統、錦町バス停下車徒歩3分

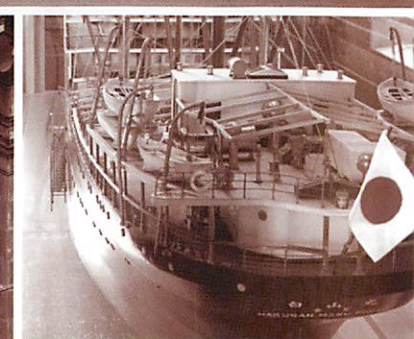
重要文化財旧日本郵船株式会社小樽支店

〒047-0031 小樽市色内3丁目7番8号 TEL・FAX 0134-22-3316



文化財に関するお問い合わせ

小樽市総合博物館 TEL 0134-33-2523 FAX 0134-33-2678



重要文化財

旧日本郵船株式会社小樽支店

Former NIPPON YUSEN Co. BRANCH

旧日本郵船株式会社小樽支店のあらまし

重要文化財旧日本郵船株式会社小樽支店は明治37年着工、同39年10月に落成した近世ヨーロッパ復興様式の石造2階建建築です。設計者は工部大学校第1期卒業生の佐立七次郎、施工は地元の大工棟梁山口岩吉があたり、工費は当時の金額で約6万円でした。明治36年に大火罹災したため、新事務所建築を計画したものと思われる。当時、小樽は北海道開拓の拠点都市として商業港湾機能を充実しつつあり、船舶・海運・倉庫業界が競って、船入潤を設置し石造倉庫を建てました。また、明治後半から一流建築家達が当時の最先端の技術で様式建築を建て、代表的作品を残しました。この建物はその草創期の象徴的存在です。完工間もない明治39年11月にはポーツマス条約に基づく日露の樺太国境画定会議が2階会議室で開かれ、会議終了後、隣の貴賓室で祝盃が交わされたという歴史的遺構でもあります。

昭和30年に小樽市が日本郵船(株)から譲り受け、翌31年から博物館として利用してきました。昭和44年3月には、明治後期の代表的石造建築として国の重要文化財に指定されました。

しかし、年ごとに老朽化が目立ってきたため、昭和53年にまず屋根葺替工事を行い、その後57年に全面修理のための調査に入り59年10月修復工事を着工、33ヶ月の工期を経て62年6月完工しました。ここに商都小樽を代表する明治後期の商業建築が優れた文化遺産としてよみがえりました。

建物は街路に面した正面(東面)の表玄関を中心に左右対称、北面に貴賓用横玄関を配し、背面両翼に張り出すコの字型平面をとっています。外壁は厚さ約75cmの小樽天狗山産軟石、腰・胴蛇腹・軒部分は登別産中硬石を使用、淡色系の優雅な色調ながら堅実で重

厚なデザインの外観です。内部は事務所としての機能性と、大理石敷き横玄関、繊細な木彫の大階段手すり、美しく精緻な中心飾り等格調高い装飾が調和して、華麗な貴賓室を有する商業建築として、設計者の周到な計画と配慮が見られます。内装には米国製のスチールシャッター、スプリングシェイドローラー、建具金物類を用い、暖房は地下にボイラー室を設け蒸気暖房とし、窓はすべて二重ガラスで北国の冬を考慮した当時としては最新式の設備を備えていました。

完全復元になった2階貴賓室は寄木造りの床、空色漆喰の天井、菊紋内摺セードシャンデリア、菊模様金唐革紙の壁、深紅のカーテン、椅子類、幻想花柄絨緞、鏡付大理石暖炉等で彩られ、家具調度類の配置、また色彩的にも往時の雰囲気がよく伝わってくる贅を尽くした華麗な空間です。隣りの会議室は約198㎡。広さを強調する吊り天井の大胆な弧を描く装飾彫刻と中心飾り、シャンデリアの光を反射するアカサス模様の金唐革紙、床を覆う大絨緞、大テーブルと36個の椅子が悠然として迫力ある時代を感じさせます。

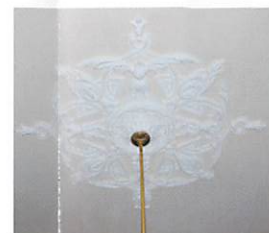
1階は客溜りと営業室が高いカウンターで仕切られており、カウンター上の円柱のブラケットライトや木彫キャピタル、力強い格天井と色鮮やかな天井紙等が海運業の隆盛を象徴しています。細部まで復元された照明器具の高さや机・椅子類の配置が執務状況を実感させ、ワニス塗りの木部の輝きとライト類の暖かさが印象的です。また、背面の豪壮な造りの金庫室や支店長室、応接室なども機能的に調和がとれています。渡り廊下で繋ぐ瓦葺附属舎には球戯室、倶楽部、看貫場(計量室)などが配置され、当時の特徴的な仕様と景観が見られます。



▲2階貴賓室



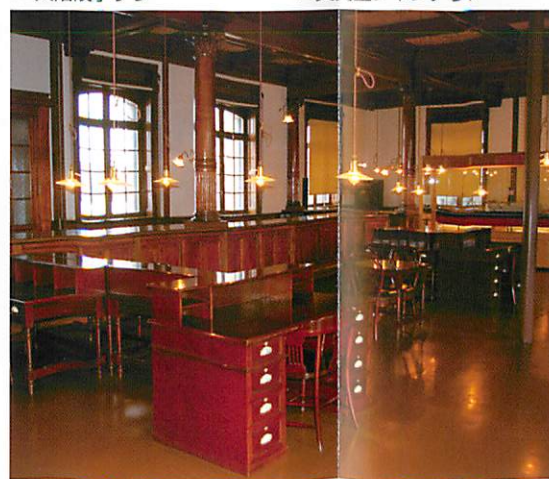
▲大階段手すり



▲会議室中心飾り



▲貴賓室シャンデリア



▲1階営業室



▲2階会議室



▲営業室木彫キャピタル



▲営業室ブラケットライト



▲2階廊下

設計者 佐立七次郎(1856~1922)

安政3年讃岐藩士の家に生まれる。工部大学校造家学科(現東大工学部)の第1期卒業生。同期生には辰野金吾(日銀旧小樽支店・東京駅)、片山東熊(迎賓館)、曾彌達蔵(旧三井銀行小樽支店)がいる。卒業後、工部省、海軍省、通信省を経て、明治30年頃より日本郵船の建築顧問となる。残存する作品としては日本水準原点標庫(東京憲政記念庭園内)がある。大正11年没。